

河内長野市総合計画審議会部会別意見集約（12月13日現在）

	元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
第1章	<ul style="list-style-type: none"> 10年先の目標というものを一応、明確に作っておいて、そして、時代潮流が変わっていけば、3年ごとにそれを変えていけばという風に考えている。 地区に自治会というものがあるように、市というの、タウンマネジメントをするような、自治の独立性を持った市をつくっていくようにしてほしい。 子ども達を育てる方針とかがバラバラ。教育委員会のやることと、中学校、小学校でやっていることと、キャンプでやっていることとか、バラバラ。もう少し、いろいろな所で活用しあえるようなものをつくってほしい。 行政が広い分野、いわゆる公園課も環境課も皆一緒になって、これをどう利用しようかという、そのような利用方法というものがあるべきではないか。 今までだと縦割り行政になっていて、なかなか総合的に対応出来ない部分があった。今回の総合計画では、行政の組織体制についても、書くべきことではないか。 独自の理念、考え方の基本的なところは入れておくかどうかは、議論の対象にもなるのではないか。 「まちづくりのしくみの構築」について、縦割り行政を排除していただきたい。まちづくりというのは、人間もハードも環境も、色々なものが全部入ってまちづくりになる。それを行政の中で縦割りで割ってしまっているから、いい考え方が入っていかない。 全国のこういう総合計画をざっと30ぐらい見たことがあるが、ほとんど同じ。 「市民」とはどういう市民を対象としているのか、市民の理想みたいなものがあれば書くべきだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画は長期的な計画なので、3年間でローリングをして、毎年度の市の政策に反映されると思うのだが、第3次総計の資料では、予算のことは全く出ていない。 総合計画の「計画と評価」という大きな項目をちょっと入れて、10年後にきちり評価できるような仕組みを入れておいたらどうか。 全てを予算の中で評価してしまうということについては、「こういう効果があった」と評価できるかどうかを、その都度考えていかなければならない。 市民のニーズというのは非常に大事だが、計画とのリンクがちょっとずれているようなところがあるので、もう少し具体的に総合計画の項目とリンクするような形が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4次総合計画は、策定段階でどう市民参加を求めて具体的にしていけるのかという視点が、強調するというかという部分の議論を具体的にやりたい。
第2章	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者社会が来るということが、わずかだけしか書いていない。是非入れておく必要があるのではないか。 中身として、人口減少というようなことは書かなくてもいいのではないか。12万人が11万人になることだけでいいのではないか。住んでいる人にとっては何の関係もない。 総合計画の策定の背景について、人口減少、安心・安全に不安が出ているとか、環境破壊、財政難とか、少し暗いイメージがある。 河内長野市というのは、経済圏という意味で、大阪市なり、堺市なりに属しているの、経済圏としての自立性が薄くなっていることも入れてほしい。 第2章の背景があまりに抽象的、スパン的な議論で、本当はここと次のまちづくりの基本理念が結びついてくることが見えにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「時代の潮流への対応」というのがあがるが、マスコミを賑わせているような言葉とちょっとずれがあるのではないか。地方分権への動きは、本当は地方財政の危機だと思う。 「自治体間競争」という言葉が本当のキーワードではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般市民がまちづくりにあまり関心がないとは思わない。「こういう風になったら」という思いはあるが、簡単に出られる場所がなく、こういう場所にわざわざ来ないと意見が出来ないという体制があるのだと思う。 「背景」のところに、地域の問題だとか、市民の問題が全然書かれていない。 我々がやる協働のまちづくりへ持っていく時に、今の骨子案だと、の財政が悪いから市民参加だという話にしかつながらない。そうではなくて、やっぱり市民も、もっともっとやりたいという気持ちが盛り上がっているんだ、でも、それに対してまだ十分な仕組みがないんだというあたりを、で書いておくと、協働のまちづくりに持っていく時に、かなりその意味合いが変わってくると思う。 背景で取り組むべきところ。21世紀になり社会全体が変わっていき、社会のしくみを変えて行く必要がある。単位のくくり方が変わり、国の個性を残しながら緩やかな連合体を形成していこうとするEUは典型。こういう形で、この10年間で、新しい広域連携の形を検討する必要性が出てきたのでは。目的別ではなく、より総合的なものを。

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
第3・4章	人口	<ul style="list-style-type: none"> 一番のポイントは少子化。次代を担う人づくり、少子化対策が大きなポイントとなる。 人口の減少という大きな転換期に来ている。今後、市としてまちとしてどう発展していくのかという部分は、本当に真剣に議論していきたい。 人口を増やすために、土地を開発していくというのではなく、今ですら住宅地の中で、空きスペースが増えてきており、それをどうやっていくのかということになる。 人口の問題はやはり非常に大切。減少することはまちの活力を失う、だからどんなことがあっても少なくともプラス思考で増やすという観点に立ち、その辺の目標をきっちり定めておくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口は11万ぐらいになると予測しているが、減る形でというよりも、増やすための方策を議論していくのも1つの方向であると思う。 将来的に考えると、人口が減少を抑制することと、何よりも河内長野市は財源を確保するということを今、一番考えなくてはいけないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 1万人の格差というのは、もしそれを本当に考えるとすれば、どんな手立てを打つか。行政としての施策として、人口が増えるというのが、昔ほど施策の有効性が効かないと実感している。 現状の住宅地で空き家が発生している中で、他のところを開発すると、空き家を残したまま、新しい家が建つということになるから、まずい状況になるのではないかと。
	子育て・ひとづくり	<ul style="list-style-type: none"> 福祉にせよ、環境にせよ、あるいは経済の活性化にせよ、基盤整備にせよ、そのキーワードはやはり「人づくり」になるのではないかと。 「教育立市」であって、素晴らしい環境にあるということが、このまちに住みたいというひとつの魅力にもなると思う。 これだけ人材があるのに、そこを利用しないで私学に流れそうな気配があるので、やはり市としても、充実した子育てができるような環境を整えてあげなければ。 地元にある公立の学校がもう少し落ち着いて、子育てする母親なり学校の先生方なり、ある意味行政なり、そのバランスが取れば、私学へ私学へという方向もちょっと止まると思う。市にとっても、市民のこれから子育てするファミリーにとっても理想的だと思う。 河内長野には魅力的な小学校がない。小中高の一環というような学校ができる事も大きなことかなと思う。 子どもがすごく個性的に育てあがっているのが、60歳なり65歳以上の、知識もしっかりして意識もある方に副担任のような形で教育に参加してもらってはどうか。 「にぎわい・うるおい・やすらぎ」プラスで、例えば「子どもたちが安心して暮らせるまち」みたいな、これはやはりまちづくりの目的だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 河内長野の人口の減少を止めるには教育の充実が必要。教育環境が良ければ、少子化とはいえ、人は集まってくる。生産年齢人口ということも期待できるのではないかと。 高齢化というのを活かして、お金をかけない教育というのも出来ると思う。地域の子どもは親だけでなく、地域全体で育てていくのが当然だと考えられればいいのでは。 親と教育委員会の関係はなんだかギクシャクしてる上、地域に住んでいる方々の間の交流というのがあまりないのが現実ではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 空気がすごくきれいだと思う。あと、歴史とかも子どもに勉強させるにはすごくいいところだと思う。そういう部分は維持しつつ、若い家族が来たらいいなと思う。
	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化だから、ただ体の弱い人のためのまちづくりではなく、高齢化でも元気なお年寄りは沢山いる社会をつくらっていただきたい。 60歳なり65歳ですごく魅力もあり元気もあるのですが、こちらに帰ってきた時に行き場が本当にない。キャリアを持って、体力も頭脳もある人たちが、ここでどんな風にして力を発揮していく場所があるのかなと色々考えてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> お年寄りですごく車を運転できない方は、坂道を歩いて上ったり降りたりするから、大変だという声で上がっている。そういうことを盛り込んで、何かいい方法があれば。 ごみの分別については、子どもにとっても、ごみに対する知識が啓発されていいことだが、実は高齢者にとっては、複雑すぎて大変負担になる。 高齢者が元気であれば介護保険を受ける人が少なくなるので、市でも協力してほしい。 年金生活されている方が増えて行く中で、こういった人たちが本当に自由に外に出入りできるような環境づくりというのが欠かせない。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政として、高齢者に社会参加を求めていく視点が弱いと思う。

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
第3・4章	若者・世代間バランス	<ul style="list-style-type: none"> 今後の河内長野市を考えていく上では、若い人が定着出来る、希望を持って住めるまちづくりが一番重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインで、しかも色々な世代の方が融合する仕組みのマンションが、これから必要なのでは。そういうマンションを建てるのに誘導という形でメリットをつけると、世代間のバランスがとれるのではないか。 市役所・行政側も、振興させるための使い易い施設にするとか、そういう規制緩和をこれからどんどん積極的に行っていかなければいけないと思う。 長い目で見た場合に、若い方に魅力あるまちというのが、まず大事だと思う。若い方々が、楽に自分の才能を発揮できる場所が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代からすると、今の河内長野にはあまり魅力がないというか、すごく住みたいという魅力がちょっと足りないと思う。(市民懇談会が提案した)ハイキングに行きたいというよりも、もっと住みたいと思わせるまちになった方がいい。 若年層を取り込むには、今のままで自然があるからちょっと来ないか、ハイキングもいそというので呼ぶという方向性は魅力的ではない。やはり、産業とまでは言わないが、他から持ってくるのが簡単でいいのは。 若者の立場として、あまり自治会組織などに拘束されると苦しいが、何か思ったことがあったら行くことのできる意見交換の場などがあれば、防災に関しても防犯に関しても協力できるところがあると思う。
	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 安全の方で、「河内長野の避難場所は本当に大丈夫？」みたいなものを感じている。公的な機関を安全な場所と見るだけでなく、民営地でも、避難場所として受け入れてもらえるような、現実に即した方策を見つけてほしい。 大阪府下でも小児医療については非常に頑張っている。 (災害時の安否確認などを行う上で、家族構成などの情報について)行政の役割は、そういう方たちへの対応という部分を考えた上での政策なりを考えてもらわなければならない。 保健・医療に関しては、基本的なシステムとしては出来上がっているが、将来に渡る状況変化にどのように対応していくかという心構えを、具体的に盛り込んでおくということが大事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟中越地震の報道で、阪神大震災の教訓をどれだけ活かされたか。自分の家ではどこまで出来たか、振り返ってみる必要がある。 自治会でも災害対策を立てておく必要があるので、市でマニュアルを作り、各地区で研究会、組織を作る必要がある。 長野は災害のないまちと言われていて、災害と言われてもピンと来ないという印象はある。 避難場所は公な場所が決められているが、実際には公の場所でも、非常に危ないという意見がかなり出てくる。地域の中で、どこで避難するかということをもっと決めていただいて、そこに市が関わっていくべきではないか。 山間部の孤立対策も考えておくべき。
	産業・活性化	<ul style="list-style-type: none"> どのような基幹産業を河内長野に誘致したらいいのかを考えたい。 不満なのは、市街地部分が全くだめということ。 農業方面から考えると、市民に安全な食料を供給していくことに、農業者として努力していきたい。 自然環境に配慮した工場進出が可能だと思う。 コミュニティビジネス特区という形で、商工会が窓口になって段取りしてやるなど色々な方法があると思う。その中で地域の人に関って、多少元気な人、ビジネス的な発想の人はその中で仲間を増やしていけば、様々な形でのビジネスを展開できれば。 切り口は観光でも悪いことはないが、観光よりも、自然保護、保全の観点から、自然体験、体験学習することによって、自然の大切さを実体験として、遊びながら学んでいただくということがいいのではないか。 常住人口が必ずしも一日中いるわけではなく、昼間人口が河内長野には非常に少ないと言われているので、補完のために他市から観光のために来てもらうというのは大事。 特産品を作るのは、行政的なバックアップ、市民的なバックアップがなければ産業にならないと思う。 河内長野市というのは大阪府のリゾートゾーンで、観光客が遊びに来ている。そういう人たちにもっと活発に利用していただいて、産業育成というものもやっていけばいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 休日は、他市からハイキング客とか観光客が沢山来るので、宿泊施設が必要であるし、「河内長野のこれが名物です」という売るものがあればありがたい。 大店舗がバンバン出来てしまっている、そのことが逆にまた、商店街を潰している要因にもなっている。こういったものの規制というものも考えていき、バランスを考えていく必要がある。 	

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
第3・4章	環境	<ul style="list-style-type: none"> 河内長野の非常に文化的な歴史的な環境的な、あるいは人柄、いい部分をいかにまちづくりに活かすかが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 河内長野というのは観光施設が大事だが、延命寺に行く途中に、産廃廃棄物がいっぱい置いてある。景観の問題にも関係してくると思うが、気になる 循環型社会を続けていくためには、住民意識が当然必要。それも、やはり次子ども達に、そのようなことを伝える必要があるのではないか。 分別が厳しくなると、市民の負担も大きくなると思うが、ひとまとめにして無意識に捨てるよりは、分別の意識や環境への意識を高めるためにもいいかと思う。こういう意識が高まるということは、市のアピールにもなるかと思う。 	
	コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 三日市の駅前再開発が進んでいるが、箱をつくれればいいという風に進んでおり、コミュニティが何も考えられていないという風な不満もある。 現在進行中の三日市の再開発も、単なる商業ビルを建てるだけではもったいない。新しい機能・働きを開発するということも考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ河内長野市内で住んでいても、地域により状況が異なるので、その地域の中で何とか解消できるような方法を考えていかなければならない。 (資源ごみ回収利益を自治活動の活動資金とすることについて)長期的に見ると、資源価格の上下にうまく対応できるようなシステムを作っておかないと、値段が下がるとどうしようもないことになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動に無関心な若い人を引っ張り出せる組織づくりが必要だ。 希望すれば参加ができるという部分をこの中で入れてほしい。「自らが行動できる場」とかいう部分を是非入れていただきたい。 それぞれの地域がやっていることを情報交換しながら活かしていける全体集約システムがあればいい。 旧村の方と新住民の寄せ集めの地域を、どうすれば一つになれるかもっとやっていかないとギクシャクしてしまう。 自治会のあり方を研究して行く時期になっている。運営の方法、次世代の自治会のありかたを研究するべきだ。 自治会加入率を上げるような努力をすることが重要。 自治会に対してどういうことで情報を伝えて行くかという方法を考えて行くのがいいのではないか。 旧市街地住民と新興住宅地の住民がお互いの気遣いで情報を共有できれば関係もうまくいくはずだ。
	市民と行政の関係	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換を自由に出来るようなシステムづくりというのが必要だし、そういうことをしていけばいいのだと思う。 行政もバックアップするという、共有体制づくりが絶対必要な部分。 市が取り組んでいる施策について、もっと積極的に市民に知らせていくことが、市民のやる気にもつながると思う。 日本の場合は管理責任がまず先に出るが、これからは自己責任という部分が最も大事なことになるのだと思う。 世の中自己責任とか自助とか、そういう言葉が花盛りだが、個人とか家庭で出来る範囲のこと、地域社会でカバー出来ることと、それから、行政の方でカバー出来ることと、この3つにきっちりと分けて考えないと、何でも自己責任になってしまう。 個人で出来ることでも千差万別で、はっきりと分けて、線を決めてしまうことによって、どちらにも入らない、どちらにもほったらかしにされるような、そういうことにならないか懸念を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが、市にどういう風に住んでいくのかということも含めて、市とともに、双方向で考えられたらいいと思う。 市としては、昔よりも手段が多様になり、情報量も沢山あると思うが、受け取る側は関心が薄く、受け取る側の努力も必要。 行政の協働体制の仕組みづくりも大事。それはやはり、行政と市民がいつも同じレベルで、同じ机の上で話しが出来る体制という仕組みが必要ではないか。 ネットに情報があるといいのでは。 情報の伝達、共有に課題がある。 通勤者は朝、駅で得る情報が大きい。電車の中でラジオを聞くので、緊急時にはいいのではないかと思っていた。 市役所との協働を考えたときに、窓口がそれぞれ違うのはよくない。一度コミュニケーションが取れば動いていてくれていることがわかるが、そうでないと扉をたたきにくい。 直接窓口に行っていくが、対応に行政が苦慮しているようだ。何かを質問すると、苦情処理みたいになっているので、質問しただけなのに苦情処理かと思ってしまう。 市民と行政職員が気軽に話せるような機会があれば、イベント、企画であったり、何気ない一瞬で情報交換をするのが大切。用事のない時に付き合いができれば一番いい。 行政の情報はいくら工夫しても1つ1つの単語とかが難しい。多少はアバウトな表現でもいいという思い切りが必要ではないか。 市民が行政の情報を解りやすく加工する機会や場所が必要だと思う。

		元気なまちづくり部会	調和と共生のまちづくり部会	協働のまちづくり部会
第3・4章	まちづくりのイメージ	<ul style="list-style-type: none"> 河内長野市についてイメージがわからず、「何もない平凡なまち」というようなことになってしまう。まちのイメージアップ策という面から組み立てをしていってはどうか。 河内長野の「売り」というのは、絶対にいると思う。 河内長野というのは“里まち”ではないか。要するに、里がまちになったということ。河内長野という自然と共生できるようなまちにふさわしいまちづくりの目標を入れるべきではないか。 “里まち”という言葉は、いかにも牧歌的な気がする。今の河内長野市を見ると、そういう牧歌的と言うには少し変わりつつあるのではないか。 半分牧歌的な形が、都市のあり方が河内長野市には必要ではないか。要するに、現在の日本のスピード社会、IT社会と一緒に乗っていても仕方がないのではないか。 河内長野市は、暮らしたい地域、「おいしいまち」というか、色んなことが味わえるまちだなというふうに感じている。 マスコミなどに良いイメージを出していけば、河内長野がいまちだというイメージがインプットされていくと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史豊かな文化財をもっと活かした特長のあるまちづくりが出来ないかなと常々思っていた。 健常者も障害者も、男性も女性も、それから、大人も子どもも大切にされるような、安心して暮らせるまちであってほしいと心から願っている。 河内長野というのはまだ、外にPRするのが下手。色々な魅力を具体的に、近隣都市も含めて、周りになかなかPRできていないと思う。 様々な人と、そしてこの地域の中で豊かな自然と共生をしていく、そういう横の共生と、過去、そして未来との共生、そういう縦の時間軸も非常に重要なことになるのでは。 交通の結節点なので、他府県との交流ということも1つの将来の力として呼び込んでいって、将来計画をつくらうというのも非常に大事なのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> 河内長野のいい部分をPRして仕組みとかエネルギーとかという部分を計画の中に入れていければ、市民も参加しやすいし、わかりやすいという部分があるのでは。 単に都市の魅力を充実させるだけだったら、大阪市内に近い方に住んだ方が魅力がある。河内長野のメリットを出すのであれば、河内長野らしい魅力を出していかないと。
	まちづくりの手法	<ul style="list-style-type: none"> 第3次総合計画でも記述されているように、ある程度ゾーンを大切にして、それぞれの特色を地域ごとにゾーン分けしていったらどうか。 単に住宅は住宅、工業は工業、中心市街地は中心市街地として分けてしまえば、全体が一つのまとまりになっていかないことがあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 府と市とが協働して政策を進めていくという風になれば、何とかかっこつくのではないか。 隣接する都市との競合だけではなく、隣接する都市が持っている社会資源をどのように連携しながら活用していくかという発想ももっと必要かと思う。 市街地景観のことについて、これからの住宅地は、やはり、車を優先ではなくて、歩行者を優先するようなまちにしていきたい。 世界遺産にどう我々は関わればいいのかなど。せっかく世界遺産だから、これに関わりたいなという、これは希望的な気持ちなのだが。 障害者のことも考えての計画であると見えるようにしていただけないものか。基本的な人権尊重の立場から同じように与えられた権利にも関わらず、障害を持つがゆえに、単独では出来ない部分、介助を必要とする部分は、行政として責任を持ってやっていただかないといけない部分はあると思う。 開発を許可する時に、計画段階で歩道とか、余裕のスペースをきっちり入れた形で指導していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりの基本理念なのかどこのかわからないが、まちづくりの目標として、5つの側面のまちづくりの目標の共通の考え方として、これまでのストックをどう活用していくのかという視点がどこかに書いておくべきではないか。 府道であっても市が、災害時、平常時を問わず何らかの形で触れる方向性を持っておかないと、行き詰まった方向が来ると思う。 小・中学校以来、河内長野について集中的に勉強したことがなかったので、市から市の現状や課題に関する勉強会を開いてもらえるとありがたい。 わが市民のためだけではなく、施設利用の広域連携などについても検討する必要がある。 色々なことをやっていく中で、公の機関を利用する時には、全員の持ち物であるという観点から、原則は受益者負担であるということを盛り込んでほしい。無料が必ずしもいいというのではない。